

R4年度版

熊本市手をつなぐ育成会のご紹介



会のロゴマーク

熊本市の木「イチョウ」の葉をモチーフに、人が集い、共に歩み、互いに手をつなぎ活気あふれる熊本市手をつなぐ育成会の姿を表現。
H30年度作成。



会のイメージイラスト

子どもたちや親が集うほのぼのとした優しさがあふれる画。
※作者は、熊本県立熊本かがやきの森支援学校の弘こずえ先生
H30年度作成

社会福祉法人 熊本市手をつなぐ育成会

ご挨拶

育成会活動は、昭和27年に、知的障がいのある子どもを持つ東京の3人の母の呼びかけで始まりました。

運動は全国に広まり、熊本で昭和31年に結成されたのが、熊本市手をつなぐ育成会です。

以来、熊本市手をつなぐ育成会は、66年間にわたり、知的に障がいのある人とその親、家族の幸せと安心のために、全国や県内の組織とも連携しながら、特殊学級の増設や養護学校の設置をはじめとして、制度の創設・充実・発展、障がい理解の拡大など、その時どきの課題解決に向けて、行政への要請活動や障がい児者への理解啓発活動など重要な役割を果たしてきました。

さらに、長い歴史の中で、その時どきのニーズや状況に応じて、いくつかの事業所を立ち上げてきました。

現在も、本人・保護者を中心に関係の皆さん、事業所職員が共に手をつなぎ、障がい福祉の充実と共生社会の実現に努めています。



熊本市手をつなぐ
育成会会長

西 恵 美

熊本市手をつなぐ育成会には、

○ほかの社会福祉法人と少し違うところがあります

- ◆それは、前ページで述べたように、**親の会が母体**ということです。
- ◆現在の**会員数は約350人**。県内及び熊本市内有数の障がいのある人の**親の会**です。

○熊本市手をつなぐ育成会には運動体と事業体があります

- ◆運動体の機能や役割を果たす一方、その時どきのニーズや状況に応じて、事業所を立ち上げて運営してきました。
- ◆学校卒業後の知的に障がいのある人の受け皿として、**作業所やグループホーム、入所の支援施設**等、さらに、**相談支援事業所や障害児通所支援事業所**なども立ち上げてきました。

○（親の会が母体の）育成会事業所で大切にしていること

- ◆**親さんや利用者さん本人の思いや願いを大切**にすることです。
- ◆親の会の育成会が母体の育成会事業所では、親さんの思いに応えるべく、利用者さんの**意思や人権、人格の尊重、法令の遵守等、高い倫理観や人権意識**が求められます。

熊本市手をつなぐ育成会には、運動体と事業体があり、両者がバランスよく、かつ、支え合って、障がいのある人と親・家族のために役割を果たしてきました。

運動体

- 理解啓発活動
- 要請活動
- 行政との意見交換会
- 各委員会の活動
- 本人部会 つなごう会



事業体

- 第二ぎんなん作業所
就労継続支援B型事業所
- しょうぶの里 障害者支援施設
- 子ども育ちの家「て・い・く」
障害児通所支援事業所
- ぎんなん／千金甲／あいりす
グループホーム
- 地域生活支援センター ぎんなん
相談支援事業所

互いに支え合って

運動体としての活動 1 理解啓発、要請活動等

行政や社会への理解啓発や、会員や関係者の声を伝える機能

会では、制度の創設・充実・発展、障がい理解の拡大など、そのときの課題解決に向けて、行政への要請活動や障がい児者への理解啓発活動など役割を果たしてきました。

啓発活動

障がいのある人への様々な理解啓発活動や諸課題をテーマに勉強会、フォーラムなどを開催



疑似体験の出前講座
「くまぐま隊」

要請活動

熊本市のほか、国や県の施策に対する要望書も全国や県の育成会を通して提出、さらに、行政主催の様々な委員会に委員として出席し、声を伝える



熊本市長への地震の
提言書提出

行政との 意見交換会

市の障がい保健福祉課と教育委員会との意見交換会を毎年開催。福祉や教育の充実に向け意見交換を行う



熊本市障がい保健
福祉課との意見交換会

家族支援

ワークショップや懇談会の開催など、家族を支えるための活動を展開



療育懇談会の開催

会員の自助活動 ※委員会活動

会では、親同士の相談や話し合い、先輩からの経験談など、会員同士の助け合いや支えあいの活動を行っています。

委員会	主な活動	内容	開催
成人部委員会	座談会 「ちょっと聞いてよ！」	子どもの将来や施設や職場で働く子どものことを話し合ったり、親同士が悩みやぐちを出し合う。	毎月開催
相談委員会	座談会 「先輩教えて！！」	障がいのある子どもを持つ親さんが、一人で悩むことがないよう、同じ苦勞をしてきた先輩の親さんからアドバイスをもらう。	毎月開催
学校部委員会	施設見学 学校訪問など	施設や事業所、学校などを見学する研修を通して、子どもたちの進路選択などの参考とする。	年間 4～5回
研修・活動委員会	広報誌 「くまもと手をつなぐ」発行	委員会活動や事業所の活動報告、トピックス、情報、お知らせなど、豊富な内容で会員や関係施設等へ情報発信。	年3回 発行
本人部委員会 (つなごう会)	スポーツ、ボウリング、調理実習、親睦会など	学校を卒業した知的に障がいのある本人さんの活動の場。毎月1回、ボウリング、旅行、趣味の活動などを楽しむ。	毎月開催

運動体としての活動

2 会員の自助活動

座談会
「ちょっと聞いてよ！」

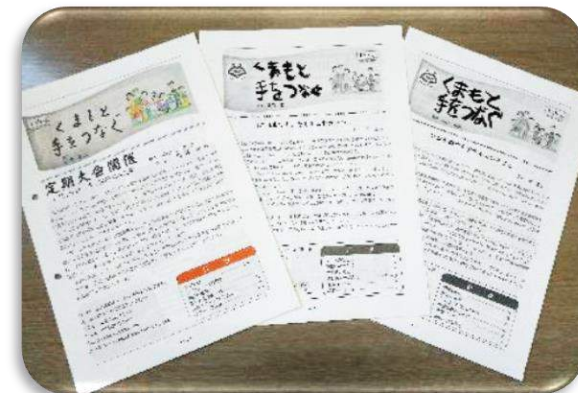


座談会
「先輩教えて！！」



「先輩教えて」拡大版の開催

広報誌
「くまもと手をつなぐ」
発行



「くまもと手をつなぐ」

施設見学・
学校訪問



施設見学 ケアはぴねす



施設見学 はなぞの学苑

本人部会「つなこう会」

○昭和35年スタート、昭和41年から熊本市育成会が引継ぐ。

- ◆ 熊本市内の中学校特殊学級卒業生の悩みや課題解消を目的にスタート。
 - ◆ 61年の長期にわたり、知的に障がいのある本人たちを支える活動を展開。
 - ◆ 毎月1回の活動を継続。毎回30～40人が参加。
- ※この2年、コロナ禍のため中止も多い。

○生涯学習、余暇活動、仲間や友だちとの再会の場

①さまざまな生涯学習の場

調理実習、書き初め、パソコン教室等で生活の幅や潤いを生む場。

②楽しみの場、活動を共にする場、懐かしい友だちや支援のスタッフらとの再会の場、悩み相談の場、喜びの場、憩いの場

③意見発表のトレーニングと発表の場

市・県の育成会大会や九州大会等の本人部会で意見発表

○“明日からがんばろう”という活力の源となる活動の場

**R1年度に、
文部科学大
臣賞を受賞!**



知的に障がいのある人への生涯にわたる支援

《育成会事業所のラインナップ》

※障害児通所支援事業所の開設により、0歳からの生涯にわたる支援のメニューが揃った。「て・い・く」には療育の拠点となることが期待される。

子ども育ちの家
「て・い・く」 H29～
障害児通所支援事業

児童発達支援

(10人)

放課後等
デイサービス

(10人)

「第二ぎんなん作業所」 就労継続支援B型事業所 (20人) S59～

「しょうぶの里」 入所支援 (30人) H13～
生活介護 (40人) H13～
短期入所・日中一時支援 (5人) H13～

「グループホーム ぎんなん」 (10人) H10～
「グループホーム 千金甲」 (4人) 共同生活援助事業 H17～
「グループホーム あいりす」 (7人) H28～

「つなごう会」 本人部会 (※旧：青年教室) S41～

「地域生活支援センターぎんなん」 特定相談支援事業 H21～
障害児相談支援事業



0歳

6歳

18歳

※65歳

熊本市手をつなぐ育成会のめざすもの、理念

めざすもの

親ならではの目線を軸として、障がいのある方々やその家族を支える活動と事業を通して手をつなぎ、共生社会の実現をめざす。

理

1 尊 厳

- ・障がいがある人の基本的人権の尊重とその人らしい生活の実現

2 自 立

- ・「働く」「暮らす」の支援の充実を図り、あらゆる機会が平等に保障され、当たり前前に地域で暮らしていける環境づくり

3 共 生

- ・障がいがある人もない人も共に支え合って生きる共生社会の実現

4 社会貢献

- ・地域に貢献し、一人の人間としての役割を果たせる人づくり

5 家族支援

- ・最も身近な社会資源であり、安らぎの場である家族の支援

6 人 材

- ・人材の確保と育成の強化

7 組織の運営・管理

- ・活力と安定性のある組織運営

R3年に
新たに2つ
追加

念

熊本市手をつなぐ育成会の事業所

- ① 「しょうぶの里」 障害者支援施設(入所・通所(生活介護)) 30人
- ② 「第二ぎんなん作業所」 就労継続支援B型事業所 20人
- ③ 子ども育ちの家「て・い・く」 障害児通所支援事業 20人
- ④ グループホーム(3ヶ所、「ぎんなん」、「千金甲」、「あいりす」)計21人
- ⑤ 地域生活支援センター「ぎんなん」 相談支援事業所

1



2



3



4



5



障害者支援施設 しょうぶの里



- ◆ 会員の願いと期待、長年の努力によって、平成13年に実現
- ◆ 熊本市西区小島9丁目 ※隣りは平成学園
- ◆ 入所・通所の生活介護 [入所(30人) + 通所(10人)]
(※入所利用者さんの平均年齢 55.2歳)
- ◆ 短期入所(ショートステイ)、日中一時支援、各1日5人まで
- ◆ グループホーム 千金甲 4人
- ◆ ぎんなん 10人
- ◆ あいりす 7人

しょうぶの里の理念

- ◆親の会の育成会が母体のしょうぶの里では、親さんの思いに応えるべく、利用者さんの意思や人権、人格の尊重、法令の遵守等、高い倫理観や人権意識が求められます。
- ◆利用者さんが安全安心に、豊かで幸せな生活が送れるよう、丁寧で誠実、温かみのある支援を心がけています。
- ◆本当の家族よりも長い時間を一緒に過ごす利用者さんと職員は、家族のような存在。
- ◆支援する・されるという関係を超えて、互いを思いやり支え合う関係でありたいと願っています。



就労継続支援B型事業所 第二ぎんなん作業所



- ◆ 知的に障がいのある人たちが地域で暮らすことをめざして、会が昭和59年に設立した県内では最も歴史のある作業所です。
 - ◆ 理念は、「地域に根ざした利用者本位の作業所」。働く活動を通して、充実した生活づくりを支援しています。
- ※建物は古いですが、アットホームな雰囲気です。
- ◆ 定員20人。20～60代の人が通所しています。
 - ◆ 利便性がよい市内中心部（新屋敷）に位置。バスや市電、自転車、徒歩、送迎などで通勤しています。

主な作業種目(内容)

①熊本市の信書便集配

熊本市の文書(信書)を区役所や出先機関に集配



②竹工作業

竹を加工し、スプーンや箸、トングなどの製品を製作



③リサイクル品回収

家庭や会社などからアルミ缶や新聞紙などを回収



④空き缶つぶし

回収したアルミ缶を、缶つぶし機でつぶして回収業者に搬入



⑤農耕園芸

季節ごとの作物を栽培
収穫した作物は販売



⑥受託作業

庭木の剪定や草取り、空き地の除草などを受託



障害児通所支援事業 子ども育ちの家「て・い・く」



「て・い・く」下代
(児童発達支援)



「て・い・く」上高橋
(放課後等デイサービス)

H29年にスタートして5年を迎えた障害児通所支援事業所「子ども育ちの家 て・い・く」は、熊本市手をつなぐ育成会で一番新しい事業所です。

て・い・くの特徴

◆「熊本市手をつなぐ育成会」の理念を踏まえた運営を展開

- ①利用者(子ども)本位
- ②ご家族の意向を尊重
- ③保護者や子どものニーズに応える
- ④関係各機関(幼・保育園、小・中・高(特別支援学校)、福祉行政、相談支援事業所など)と連携

◆ 学習習慣の確立を重視

- ・ソーシャルスキル・トレーニングの重視
- ・個別の療育を重視(児童発達支援)

◆ 子どもたちの育ちに欠かない多様な社会体験を重視

- ・広い空地や菜園があり、伸び伸びと球技等が楽しめる環境
- ・1泊2日の宿泊キャンプや金峰山ハイク、県内各所へのバスハイク
- ・大家族のような異年齢集団(3歳～17歳)での活動

⇒広く人間関係を育み人間関係の大切さを学ぶ



「て・い・く」下代
(児童発達支援=幼児)



シール貼り



絵本の
読み聞かせ



運動あそび

個別の療育

広場で自転車乗
りにチャレンジ



稲刈り体験

「て・い・く」上高橋
(放課後等デイサービス
=学齢児童生徒)



学習ルーム



夏季キャンプ



グループホームぎんなん



- ◆ 定員は、男性 5 人、女性 5 人の 10 人です。
- ◆ 入居者の方は、一般就労や就労支援事業所、生活介護などを利用しています。
- ◆ 若い人も多く、活気にあふれています。



グループホーム千金甲



- ◆ 定員は4人で、現在、40～50代の男性3人が生活しています。
- ◆ 入居者の方は、就労支援事業所、生活介護などを利用しています。

グループホームあいりす



- ◆ 40～60代の男性6人が生活。
- ◆ 入居者の方は、就労支援事業所、生活介護などを利用しています。



相談支援事業所 地域生活支援センター ぎんなん

～ 子ども・本人さんの幸せと
保護者・ご家族の安心を第
一に考えます ～



※事務所は、しょうぶの
里内にあります。



育成会の相談支援事業所として、以下の方針で相談支援を行っています。

- ①障がいのある本人の**意思や人格を尊重し、常に本人、保護者・ご家族の立場で相談支援**を行います。
- ②**丁寧で、誠実、温かみのある相談支援**に努めます。
- ③**ご希望や選択に基づき、育成会のネットワークをフルに活用して関係機関と密接な連携**を取り、総合的・効率的に支援を提供します。

「中長期計画・ビジョン」 (理念の実現&課題の解決に向けて)

熊本市手をつなぐ育成会では、会がめざす方向性と取り組む具体的な中身などについて1年かけて検討し、R3年3月に「**中長期計画・ビジョン**」《**テーマ：～社会や時代のニーズに応える熊本市手をつなぐ育成会組織と活動～**》をまとめました。

運動体

事業体

1 育成会
運動の
充実・
活性化

時代や社会状況に応じたミッション、役割、存在意義を踏まえた育成会運動の展開

2 安定的
な組織
運営

育成会運動を支えるための組織の維持・強化

1 良質な
福祉サ
ビスの提
供

育成会としてのミッション、役割、存在意義を踏まえた事業所運営の展開

2 人材の
確保と育
成、資質
の向上

職員の人材確保、育成・資質向上、研修、資格取得への助成等の仕組みづくり

3 働きや
すい、働
きがいの
ある職場
環境

育成会としての理念の追求と利用者本位の福祉サービス充実のため、職員処遇の向上、働きやすい、働きがいのある職場づくり

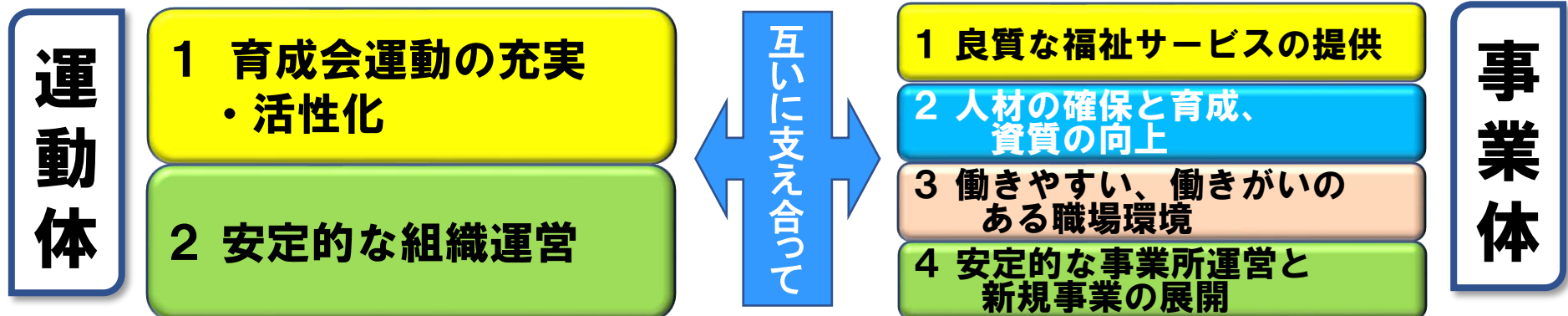
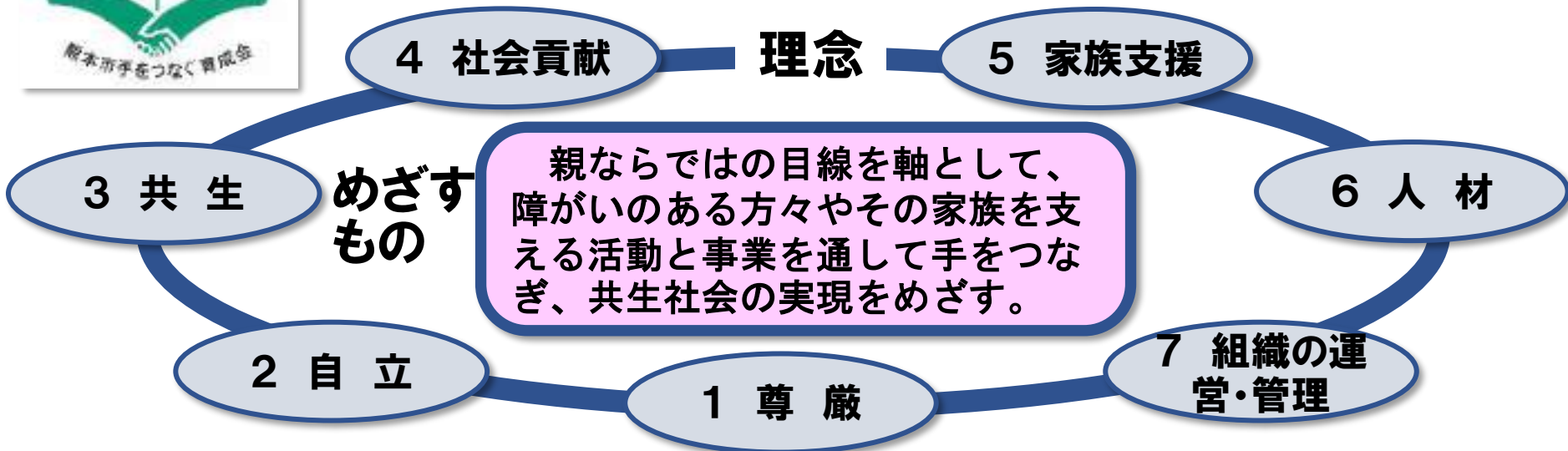
4 安定的
な事業所
運営と新
規事業の
展開

各事業所における安定的な事業運営と新規事業展開のための取組

熊本市手をつなぐ育成会のビジョンの実現に向けて



熊本市手をつなぐ育成会には、運動体と事業体があり、両者がバランスよく、かつ、支え合って、会がめざすものや理念の実現に向けて進む。



熊本市手をつなぐ育成会事務局・事業所マップ

事務局	熊本市中央区新町2丁目4-27 熊本市健康センター新町分室内
しょうぶの里	熊本市西区小島9丁目14-58
第二ぎんなん作業所	熊本市中央区新屋敷3丁目9-7
て・い・く《放デ》	熊本市西区上高橋1丁目6-19
て・い・く《自発》	熊本市西区城山下代4丁目10-16
地域生活支援センター	ぎんなん ※しょうぶの里内
GHぎんなん	熊本市西区上熊本2丁目2-18
GH千金甲	熊本市西区小島9丁目3-3
GHあいりす	熊本市西区小島9丁目2-22

GHぎんなん

事務局

第二ぎんなん作業所

しょうぶの里/
相談ぎんなん

て・い・く
※放デ

GHあいりす

GH千金甲

て・い・く
※自発

最後に

66年の歴史を有する熊本市手をつなぐ育成会には、
現在、約350人の会員と70人の育成会事業所の職員がいます。

一人一人のできることは小さくても、同じ思いを持った多くの仲間がいます。

障がいのある人とそのご家族の幸福実現と、障がいのある人もない人も共に生きる共生社会の実現をめざして、手を携えて歩んでいきましょう！



ホームページへのアクセス



スマホ版



PC版

